

Hello! FUJISEI

No.53

収入が伸びないなか、支出を抑えながら不時の出費に備えて貯蓄も…毎月の家計のやりくりは大変です。

総務省統計局「家計調査報告（貯蓄・負債編）平成22年平均結果速報（二人以上の世帯）」によると、二人以上の世帯の1世帯当たり平均貯蓄現在高は1657万円で、前年に比べ1.2%の増加でした。一方、年間収入は616万円で前年に比べ2.2%減少し、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は、前年に比べ9.0ポイント上昇し269.0%でした。勤労者世帯（二人以上の世帯に占める割合53.8%）では、平均貯蓄現在高は1244万円で、3.4%の増加。また、年間収入は697万円で1.7%減少し、貯蓄年収比は178.5%で、8.8ポイント上昇でした。

しかし、平均値（1657万円）を下回る世帯が67.2%（前年67.6%）と3分の2を占め、世帯分布は貯蓄現在高の低い階級に偏っています。最も少ない100万円未満の階級の割合は11.3%となっており、前年（10.7%）に比べ

1世帯当たりの貯蓄現在高

平均額は微増だが、低い階層に偏って分布

0.6ポイント上昇しています。

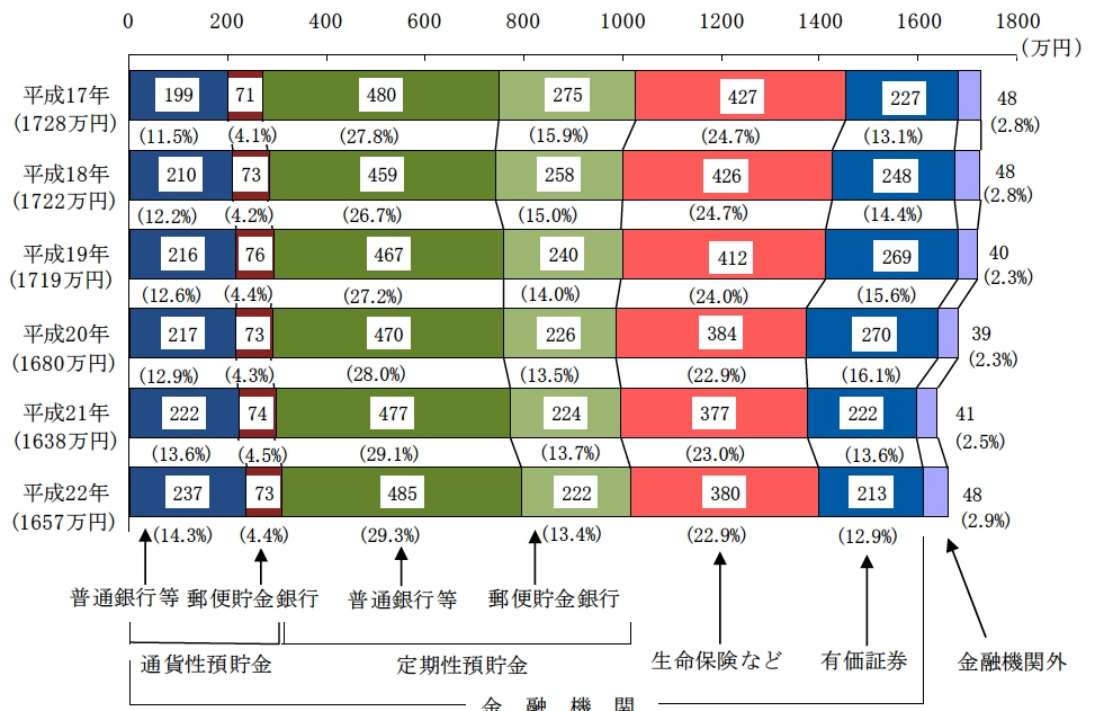
また、貯蓄現在高のある世帯全体を二分する中央値（金額の低い世帯から高い世帯へと順に並べ、ちょうど中央に当たる世帯の値）は995万円（前年988万円）でした。勤労者世帯では、平均値は1244万円、中央値は743万円となっており、共に二人以上の世帯全体より低くなっています。

貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、定期性預貯金が707万円（貯蓄現在高に占める割合42.7%）と最も多く、次いで「生命

保険など」が380万円（同22.9%）、通貨性預貯金が311万円（同18.8%）、有価証券が213万円（同12.9%）、金融機関外が48万円（同2.9%）となっています。

平成17年以降の推移では、二人以上の世帯・勤労者世帯共に、貯蓄現在高が多い定期性預貯金および「生命保険など」は減少傾向が続いていましたが、平成22年は共に増加しました。なお、貯蓄現在高が多い世帯ほど、おおむね定期性預貯金および有価証券の割合が高くなる傾向が見られます。

貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移（二人以上の世帯）



総務省統計局「家計調査報告（貯蓄・負債編）平成22年平均結果速報（二人以上の世帯）」